

ついに春学期が始まり、この留学も残すところ半分となってきた。こちらの環境にはすっかり慣れたことを最近ふと感じた。ちょっとしたトラブルや事務的なことに対処できるようになったことは慣れた証拠だと思う。年明け後は雪が降る日は少なかった。しかし寒さは相変わらず和らぐことはないようだ。前回の報告と重なるが、1月中旬まで冬休みだった。そのせいもあり、春学期が始まると、大学周辺は急ににぎやかになった感がある。今月の報告は、春学期の履修授業についてと先日出かけたデトロイトでのモーターショーなどについて報告したい。

—春学期の履修科目について—

私は今学期以下に示す授業を履修した。秋学期に計画していた履修科目が履修できなかったことや秋学期の教訓を生かした授業の履修を考え、登録を行った。

ESL 114 Intro to Academic Writing 3 hours

秋学期に引き続き英語を母国語としない生徒を中心に行われる英語の授業を履修した。クラスメートはマレーシア、台湾、韓国とフィンランドからの学生である。みな授業の雰囲気を探りながらという感じがするが、前学期とは異なった雰囲気に私は新鮮さを感じた。担当教員はみな意見を聞きだそうと積極的である。授業の題名どおり書くことが中心で、授業中も何度か文章を書くことが求められる。私は未だに長い文章が書けない。渡された紙の半分を書くことがいっぱいといった感じだ。書いたものをパートナーと、またはグループ内で話し、意見交換を行う。秋学期の反省を生かし、この授業ではできるだけ英語で考えていけるようにしたいと考えている。例えば、自分の中でフォーマットを考え、それにそって考えるというのもいいと考えている。

ME 403 Internal Combustion Engines 3 hours

本授業は内燃機関の授業である。金沢工業大学(以後:KIT)での私の研究室のメインの内容であり、学部時の研究内容ということもあり、とても興味深い授業である。KITの私の研究室では、学部時に内燃機関の英語の本の訳し合わせを研究室内の皆で行っていた。その時はそれが嫌でたまらなかったが、今ではその時の内容がとても役に立っている。使用する教科その内容が類似しているのはもちろんのこと、専門用語も聞きなれていることから、授業は理解できるのでとても楽しい。授業は講座と実験があり、先日一回目の実験があった。内容は汎用機用エンジンを分解し、寸法から特性を求めるレポート提出が求められた。KITでもこのような授業があったため慣れている。私はパートナーと共にエンジンを分解し、計測を行った。英語のコミュニケーションにも慣れてきたと思う。

TAM 212 Introductory Dynamics 3 hours

この授業は運動学の基礎を勉強する。授業は講義と問題を解きあう授業の二つがある。講義は200人近い生徒が一斉に聞くので、この授業の席取りは大変である上、毎回宿題の提出が要求されている。一度日本で履修している授業にもかかわらず、忘れてしまっていることがあり、復習の意味も含め、大変良い授業だと思う。授業中は担当教員が黒板とプロジェクターを用いて説明を行う。秋学期までの授業と違い、この授業はとても騒がしい。授業中の私語や関係ないことを行うなど、雰囲気は悪いとはじめは思った。ところがそれも一概に言えないようだ。話をしているも授業への姿勢はしっかりしており、質問や先生への指摘などが頻繁に行われていることに驚いた。問題を解きあう授業は、TAが担当する週に一回の時間が設けられている。8人という少人数で、答え合わせやわからないところを丁寧に教えてくれる。まるでKITの工学基礎教育センターの授業版のようだ。

ENG 491 Interdisciplinary Design Project 3 hours

この授業は秋学期から引き続き受講しているプロジェクト活動である。今学期は車両製作と、大会への提出物の作成や準備である。私は知らなかったのだが、冬休みの間からすでに車両製作が進められており、授業開始時には車両フレームの半分ができていた。KITでの活動を生かし、私は旋盤やフライス盤などの工作機械を用いて、メンバーと共に車両の製作にかかわっている。製作に当たると、KITではありえないことが数々起こる。例えば、工作機械で何か物を作っている途中に同じ工作機械で違うものを作り出すことや、溶接でひずんでしまったところを力づくで直すなど、大胆でアメリカ感が漂っていると思った。私が考える方法ではない方法で行うなど、製作方法や考え方の違いがおもしろいと思う。日々思うことが、作業場をきれいに使わないということだ。これが文化なのか、ここのやり方なのか分からない。しかしメンバーの製作速度は速く、部品をあっという間に作ってしまうことには驚いた。今年もこのプロジェクトチームは2つの大会に出場する。私もぜひ同行できるように励むつもりだ。

履修授業はこれらの合計12creditsである。前回の報告でも取り上げたが、履修授業に負担がかからないようにした。その理由の一つは、プロジェクト活動にある。前学期は提出物など色々なことによる負担や、自分の弱さでプロジェクト活動に参加しなかったことがあった。そのことで周りの信用はもちろん、チーム内での自分の存在感が薄れていることが分かった。今学期は是非大会に同行したいということもあり、自分の存在をアピールしていこうと思った。そこで、授業の負担を減らし、できる限りプロジェクトブースに行き、メンバーと交流できる時間を増やすことを考えた。

—デトロイトモーターショー—

1月最終週に私達はデトロイトで開かれたモーターショーに出かけた。今回も冬休みの旅行同様にレンタカーを借りての移動となった。しかし授業が始まっていることもあり、旅先でゆっくりすることができないため、かなりハードなスケジュールでの旅行となった。デトロイトはアメリカの自動車産業の町である。ここで開かれるモーターショーは以前からぜひ訪れたいと考えていたものの一つだった。私はこれまでこのような催しに出かけたことがなかったので、かなりの期待を膨らませて行ったせいか、想像していた雰囲気と違うことに少々がっかりした。次世代の車両や技術を含んだコンセプト車両が多く展示されているのかと思ったが、現行の車両や次期販売車両が多かった。しかし普段お目にかかることができない物や触れることのできない高級車両を見ることができたことはうれしい。さらにミシガン大学など、Formula SAEの活動を行っている大学の車両展示があり、プロジェクトメンバーから色々な事を聞くことができた。道中の天候があまり良いとは言えなかったが、無事戻ってくることができた。しかし帰路の際に分岐を間違えた上、日本のETCのような高速道路のノンストップ料金システム「I-PASS」を非対応車でありながら通過してしまうなど失敗もあった。この失敗は、後日Webで支払うなどして解決した。アメリカでの車の運転にも慣れたことで、過信していたところもあったが、このようにいろいろなところで失敗しながらも、楽しい旅行をすることができた。

今回は、春学期の履修授業についてと、先日のデトロイトモーターショーの様子を報告した。早くも授業は2週間が過ぎ、生活リズムを取り戻しているが、提出物や活動等に追われる日々である。しかし悔いの残らないように過ごしていきたいと改めて思っている。次回は生活の様子や感じたことを報告しようと考えている。